

# 結果にコミットする?! 橘高校

「ダ〜ンダン!」という独特の低音のリズムと共に背中を丸めた人が回転台に乗って現れ、「パンパカパ〜ン」という音と共に見違えるほど変わった体型で自信に満ちた笑顔に変わり、「結果にコミットする! ○○○○」と流れるコマーシャルを知っていますか?

このコマーシャルを流している R 社は、どんなにダイエットをしても続かなかった人を、体を鍛え、食生活を変えることで、健康的にダイエットさせることを目標にしているようです。

ところでこのコミットという言葉はもともとは英語ですが、「結果にコミットする」という場合には、「結果を出すことを、責任を持ってお約束します」とか、「結果を出すために、最大限に関わります」「目標達成に向けて努力し良い結果を残します」など、とり方によって微妙にニュアンスが変わるようです。



先日この R 社の社長がテレビに出ていたのですが、あのコマーシャルに出てくる人のように、筋肉がっちりでいかにもスポーツマンタイプなのかと思っていたら実際にはそうではなく、見た目は本当に「普通の人」で、年齢的にもみなさんのお父さんとそれほど変わらない40歳とのことでした。

実はこの社長は小さいときから「だめだ」「だらしがない」といわれて育ち、勉強も、当時地元で一番偏差値の低い高校の中でも、成績は学年で400人中399番。下から二番目だったけど、自分の前の398番も、後ろの400番の生徒も日本語の良くわからない外国人の生徒だったそうです。(社内に社長の同級生がいて、その人も、彼がこんなふうになるとは想像もできなかつたと、本人の目の前で笑いながら言っていました)

バイトをしてもミスばかり。遅刻も多くてだらしがないので、クビになったこともあったそうです。

もちろん、周りからすごくバカにされたそうですが、社長はこんなふうには言っていました。

「ぼくはすごくバカにされたけれど、自分は今も昔もバカはひとつの個性に過ぎないと思っている。

普通よりも良いことだ」



この社長のすごいところは「バカだから」といってあきらめたり、失敗したからと言ってやけになって投げ出したりしなかったことです。

そもそも社長が変わるきっかけは、彼女にふられたことでした。絶対に見返してやる! という、よくある動機で必死に勉強し大学に合格。その後中退したものの、失敗しながらも次から次へと新しい仕事、新しい会社を立ち上げて今にいたっているとのことでした。

社長が変われたのは、できないことも多かったけれどいつも前向きだったこと、自分のことをダメな人間だと思ったことがなかったということ、そして自分はダメなところが多いからこそ、人の意見に素直に耳を傾けたり、失敗の経験を大切にして次はどうしたらいいかを考えたり、できないことは人に素直にお願いする「お願い力」をみがく謙虚さがあったということだと思います。インタビューの中ではこうしていました。

**「人はだれでも幸せになれるし、人は誰でも変われる。地元で一番偏差値の低い学校でビリから2番目だった自分だって、こんなふうに変われたのだから」**

「バカな」自分が変われたというその自信が「結果にコミットする」という合言葉になっているのかもしれない。

ちなみにこの R 社の HP を見ると、途中でやめることなく「圧倒的な結果」に導くための3つのサポートとして、「トレーニング」「食事管理」「メンタルサポート」があるそうです。

さて、今橘高校にいるみなさんはどうですか? 入学するときに「変わりたい」「がんばりたい」「資格をとりたい」「卒業したい」という思いを持っていたはずですが、今はどうですか?

題名に「結果にコミットする?!」とハテナマーク(?)を入れたのは、

**結果にコミットできるかどうかは、みなさんのやる気にかかっているからです。**

先生たちは、「結果を出すために、最大限にみなさんに関わり」ます。

でも「目標達成に向けて努力しよい結果を残せるかどうか」は、みなさんのやる気と努力次第です。

R 社の3つのサポートを橘高校に例えてみると...



「トレーニング」 = 毎日の授業

「食事管理」 = 担任の先生による出席や成績管理

「メンタルサポート」 = 担任による個別面談・教科や部活担当・保健室での相談  
スクールカウンセラーによるカウンセリング

そう。サポート体制は R 社に負けてはいません。



みなさんの毎日の努力と、先生たちのサポートで結果にコミットできたとき、中学校までの自信のなかった自分、自分はバカだ、自分はダメだと下を向いていた自分ではなく、顔を上げて、自身に満ちた笑顔で、卒業証書を手この橘高校を巣立っていくことができるのです。

大切なのは、あきらめないこと

失敗したからと言って(彼氏や彼女にふられたことも含めて)やけになって投げ出さないこと

ふてくされないで、先生や保護者、友達からのアドバイスや注意に素直に耳を傾けること

できないとき、わからないとき、困ったときに助けてとお願いする力を身につけることです



さあ、あなたは高校生活をどう、終えたいですか? あのコマーシャルのように、

下を向いたまま、ダメな自分のまま途中で逃げ出したり、あきらめてしまいますか?

それとも、卒業証書を手、笑顔でこの橘高校を卒業していきたいですか?



保健室は、あなたが望む結果をだすために、最大限あなたに関わることで、あなたの結果にコミットしたいと思っています。